







## 運用経過

### 当期中の基準価額等の推移について

(第9期：2017/11/25～2018/5/24)

基準価額の動き	基準価額は期首に比べ1.2%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。
ベンチマークとの差異	ファンダの騰落率は、ベンチマークの騰落率（1.9%）を0.7%下回りました。



- 分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンダの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンダにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンダの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

### 基準価額の主な変動要因

上昇要因	米国株式市況（米ドルベース）が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	米ドルが対円で下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

## 投資環境について

(第9期：2017/11/25～2018/5/24)

### ◎米国株式市況

- ・期首から2018年1月までは、米国の良好な経済指標の発表に加え、米税制改革による企業業績の改善期待の高まりなどを受け上昇しました。2月から3月にかけては、米利上げペースの加速や米国の輸入関税導入により世界的な貿易戦争が懸念され軟調な展開となりました。4月以降は、米中貿易摩擦問題において両国間で歩み寄りの姿勢が見られたことや、好調な米国企業決算などから上昇に転じました。

### ◎為替市況

- ・為替市況は、期首と比べて1.6%円高・米ドル安となりました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

- i** 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

### <三菱UFJ 米国配成長株ファンド<為替ヘッジなし>>

- ・主として、米国配成長株マザーファンド受益証券に投資しており、これを通じてベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行いました。
- ・資産のほぼ全額をマザーファンドに投資することで、株式（不動産投資信託証券（REIT）を含む）の実質組入比率は高水準を維持しました。このため基準価額は、ベンチマークとほぼ同様の推移となりました。

### <米国配成長株マザーファンド>

基準価額は期首に比べ2.1%の上昇となりました。

- ・S&P500配当貴族指数に採用されている株式（REITを含む）を主要投資対象とし、ベンチマーク（S&P500配当貴族指数（配当込み、円換算ベース））に連動する投資成果をめざして、運用を行いました。



## &lt;米国配成長株マザーファンド&gt;

ベンチマークは1.9%の上昇となったため、カイ離は0.2%程度となりました。

## ◎組入比率要因

- 期中、ファンドの資産をほぼ全額S&P 500配当貴族指数構成銘柄へ投資しました。
- 効率的に運用を行うため、円貨、外貨現金などを若干保有しました。

## ◎銘柄選択要因

- ファンドとベンチマークの値動きや、推定トラッキングエラーなどについてモニターし、独自開発システムを活用してベンチマークとの連動性を高めるよう努めました。
- 保有銘柄については、2017年10-12月期決算や2018年通期業績見通しが市場予想を上回ったことが好感された「WW GRAINGER INC」（産業用資材販売会社）などが上昇しました。

## ◎その他の要因

- 売買コスト、保管料等がファンドのパフォーマンスにマイナスに影響しました。

### 分配金について

 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきました。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

## 【分配原資の内訳】

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第9期	
	2017年11月25日～2018年5月24日	
当期分配金 (対基準価額比率)	100	0.788%
当期の収益	50	
当期の収益以外	49	
翌期繰越分配対象額	2,587	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの收益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### <三菱UFJ 米国配成長株ファンド<為替ヘッジなし>>

- ・米国配成長株マザーファンド受益証券への投資を通じてS&P500配当貴族指数構成銘柄への投資を行い、同指数の値動きに連動する投資成果をめざす方針です。

### <米国配成長株マザーファンド>

- ・S&P500配当貴族指数構成銘柄について指数構成比率に応じて投資を行い、同指数の値動きに連動する投資成果をめざす方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年11月25日～2018年5月24日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 113	% 0.880	(a)信託報酬=期中の平均基準額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数) (投信会社) (55) (0.427) (販売会社) (55) (0.427) (受託会社) (3) (0.027)
(b) 売買委託手数料	0	0.002	(b)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 (株式) (0) (0.002) (投資信託証券) (0) (0.000)
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 (株式) (0) (0.000) (投資信託証券) (0) (0.000)
(d) その他の費用	3	0.025	(d)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 (保管費用) (3) (0.023) (監査費用) (0) (0.002)
合計	116	0.907	
期中の平均基準額は、12,817円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。



## ○組入資産の明細

(2018年5月24日現在)

## 親投資信託残高

銘 柏	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
米国配成長株マザーファンド	千円 7,450,587	千円 8,080,973	千円 13,491,185

## ○投資信託財産の構成

(2018年5月24日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
米国配成長株マザーファンド	千円 13,491,185	% 97.7
コール・ローン等、その他	315,156	2.3
投資信託財産総額	13,806,341	100.0

(注) 米国配成長株マザーファンドにおいて、期末における外貨建純資産（17,191,460千円）の投資信託財産総額（17,267,253千円）に対する比率は99.6%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカ ドル=109.69円			
-------------------	--	--	--



## ○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	100円
----------------	------

- ◆分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。
- ◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、2018年5月24日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。
- ◆課税上の取り扱い
  - ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
  - ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
  - ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
  - ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

### [お知らせ]

- ①当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。  
(変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)  
(2018年1月1日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。





- 当該投資信託のベンチマークとの差異について  
ベンチマークは1.9%の上昇となったため、カイ  
離は0.2%程度となりました。

#### ◎組入比率要因

- ・期中、ファンドの資産をほぼ全額S & P 500  
配当貴族指数構成銘柄へ投資しました。
- ・効率的に運用を行うため、円貨、外貨現金など  
を若干保有しました。

#### ◎銘柄選択要因

- ・ファンドとベンチマークの値動きや、推定ト  
ラッキングエラーなどについてモニターし、独  
自開発システムを活用してベンチマークとの連  
動性を高めるよう努めました。

- ・保有銘柄については、2017年10-12月期決算や  
2018年通期業績見通しが市場予想を上回ったこ  
とが好感された「WW GRAINGER INC」（産業用資  
材販売会社）などが上昇しました。

#### ◎その他の要因

- ・売買コスト、保管料等がファンドのパフォーマ  
ンスにマイナスに影響しました。

#### ○今後の運用方針

- ・S & P 500配当貴族指数構成銘柄について指  
数構成比率に応じて投資を行い、同指数の値動  
きに連動する投資成果をめざす方針です。









